

居場所感をもち、自分らしさを発揮できる学級づくりの工夫

— 学校生活分析シートを活用した話し合い活動を通して —

特別活動班 富永 将裕 (中学校教諭)

こんな生徒は、いませんか？

- 学校生活をもっと充実させたい
- みんなと協力して取り組みたい
- もっと自分のことを分かってほしい



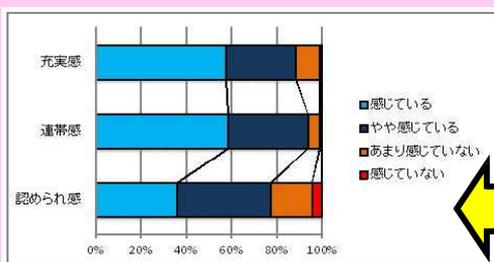
一人一人の「居場所感」を高めれば、子どもたちが変わります!!

取組1

計画委員がクラスの現状を分析して、クラスの課題を明確にする

「居場所感アンケート」の活用

3つの要素に分類してアンケート結果を分析することで、クラスの現状と課題が明確になる。



居場所感アンケートの結果

○ 「充実感」

(頑張ったときに感じられる)

○ 「連帯感」

(仲間と協力したときに感じられる)

○ 「認められ感」

(周りから認められたときに感じられる)

3つの要素の向上を目指した活動を一人一人が自己決定できる取組をしましょう!!

取組2

話し合い活動で、課題解決のための具体策を考え、自己決定し、自己及びクラスの向上のために役立とうとする意識を育む

「学校生活分析シート」の活用

居心地のよいクラスについて書かれた付せん紙を、3つの要素に分類してシートに貼ることで、話し合う視点が焦点化され、課題解決への具体的な行動が見えてくる。

【課題解決への具体例】

・あまり話したことがない人がいるので、みんな仲良くなれるように、毎日全員にあいさつします。



取組3

実践と振り返りの場面で、友達からの言葉を励みや自信にして、居場所感を高める

「振り返りシート」の活用

自己評価をしながら自己の行動を振り返り、友達からの言葉をもらうことで、励みや自信につながり、自己の居場所感が高まる。

【実践後の感想】

- ・人に勉強を教えることによって、自分も自信がついた。(充実感)
- ・掃除を積極的にするようになったら、みんなも動いてくれました。(充実感・連帯感)
- ・クラスのみんなと仲良くなれた。(認められ感)
- ・明るいと言われるようになって、嬉しいです。(認められ感)

成果と課題

○ 友達の実践を直接見たり感じたりしたことで、クラスのために役立とうとする意識が定着し、物事に率先して取り組む生徒が増えた。

● 振り返りシートの活用の他に、学活の時間等を利用するなど事後の活動を充実させることが必要である。

